

緑友会コミュニケーション誌

FRIENDS OF GREEN

フレンズ オブ グリーン

2001年5月発行

No. 105

広島県広島市中区広瀬町1-16
発行人 福田 信彦 広島青年印刷研究会
編集人 やまなし印刷若人会



第34回 全国印刷緑友会山梨セミナー

第34回全国印刷緑友会山梨セミナー開催される

平成13年2月10日（土）、やまなし印刷若人会主管による「第34回全国印刷緑友会山梨セミナー」、テーマ「2001原点を探す旅に出よう！」が山梨厚生年金会館に於いて開催されました。前回大会から5年ぶりに開催されることになった、山梨セミナーには、全国から27グループ127名と地元24名の総勢151名が参加しました。

今年は例年より雪が多いということもあり、「当日の天気は大丈夫だろうか？雨は降っても雪だけにはならないでくれよ」など心配をしていました。

我々の願いが通じたのか、当日は天候にも恵まれ、予定通り緑友の仲間が次々と会場にやってくるのを見て、一段と気も引き締まりました。

ざわめく会場の中、「登録状況はどうなっているか？しっかりと挨拶は出来るのか？」など頭の中をいろいろな事がぐるぐると回っていました。そして定刻！式典が始まりました。式次第に従い、まずは開会宣言！そして国歌斉唱（君が代）、綱領唱和と

続きいよいよ参加グループの紹介「グループ名称を間違えないだろうか？」落ち着いた口調で次々と参加グループが紹介される。「間違えずに無事、紹介が終わったな」そして、ついに実行委員長の挨拶、人の心配をしている場合にはなかった、平静を装いながら壇上に上がる。まずは、緑友会の皆さんこんにちは！「こんにちは」と大きな声で挨拶が返ってきた。みんなの顔を見ながら挨拶をするほど余裕はなかったが、とにかく丸暗記したことを坦々と喋りつづけた。挨拶途中で地元の報道カメラが気になり、いきなり頭が真っ白になった。大ピンチ！落ち着け落ち着け、大きく深呼吸、なんとか挨拶を終えることが出来ました。次に全国印刷緑友会会長挨拶、さすがは福田さん、数日前より風邪で体調を崩していたにも関わらず、恙無く挨拶を終えました。そして、来賓祝辞、来賓を代表して山梨県印刷工業組合理事長より祝辞を戴きました。

閉会宣言！北條 正 君「シ～ン」何秒かたった後、ひょっこり会場入口より顔を出し「俺かよ」と言わんばかりの表情に会場が僅かな笑いにざわめいた。「笑いも必要か」何はともあれ式典は無事終了し、15分の休憩時間をはさんでセミナーが始まりました。

セミナー第一部は「2005残れなかった3分の2」と題して、我々経営者が独自のゴールや目的を示す企業理念も無いままに走り続けてしまったら、4年後はどうなってしまうのかを、お芝居を通して疑似体験して戴きました。当初、我々会員が役者を演じることを考えていましたが、余りの台詞の長さ



や、如何に正確に伝えるかといった演技力の部分で最終的にプロの役者さんに演じてもらう事にしました。さすがはプロの役者さんだけあって、我々の伝えたいこと全てを100%以上の完成度で演じている姿に、涙が出るほど感動していました。そして第二部では今回のポイントでもある企業理念ついて、「和の実学」の実践者としての立場から、住吉海平氏からお話を戴きました。

セミナーも無事終了し、いよいよ懇親会、司会は浅井。「それではこれより懇親会を始めさせていただきます」と硬い硬い、練習ではもっと柔らかかったのに、緊張したかな？ 続いて歓迎の挨拶雨宮幹事長。一人コントのような挨拶だけど何処か硬い。やっぱり緊張しちゃったのかな？ 余り人のことは言えないけど！

賑やかな会場のあちらこちらで、真剣に話し込んでいる人や、下ネタに走っている人など様々で、とても盛り上がっていました。最後にお礼の挨拶になり、私は一言だけお礼の挨拶をして、あとは依田、井上両氏に任せました。「二人とも、とにかく話が長〜い」。

最後にやってくれました、京都の滝本さんによるビールシャワー！ みんな大慌て。「マジかよー」 京都セミナーの時に滝本さんからもらったピンクのセミナージャケットを着てなかったのが悪かったんですかね「滝本さん、ごめんなさい」。

最後になりますが、今セミナー開催にあたりまして、いろいろな方からのご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。



山梨セミナー実行委員長あいさつ



山梨セミナー実行委員長
稲葉 政太

「2001原点を探す旅に出よう！」をテーマに主管させていただきました、今回の山梨セミナーですが、何とか無事終えることができ、ホッとしています。

また、同時にこれからが本当の意味での原点探しだという思いでいっぱいです。

そこで、セミナーを通しての我々の活動を振り返ってみることにしました。

我々は我々自身の原点を探るうえで、様々な学問や思想に触れ、その中で「和の実学」という、私たちにとって一つの気づきとなる思考方法に出会いました。この「和の実学」とは、現実に対して具体的に何をすべきか、といった実効性のある答えを示す一つの実学です。

この「和の実学」をベースに活動する中で、我々に今、何が求められているかに気づくことが出来ました。

それは、印刷人であると同時に経営者であり、経営を生業とする我々は、やはり経営にテーマを搾り「原点」に立ち返って基本を再確認することが重要だと言うことです。

また、企業経営者として独自のゴールや目的を示す「企業理念」こそが、我々に今、求められている原点だということです。

この「企業理念」の大切さを、一人でも多くの人に伝えるために、セミナーに向けて準備してきました。

当日、第1部として「2005年 残れなかった3分の2」というお芝居を通して、ゴールのイメージもなく走りつづけた我々の4年後を疑似的に体験していただき、第2部では「和の実学」の実践者としての立場から住吉海平氏による、成功事例発表、また企業理念がなぜ大切なのか、無いとどうなってしまうのか？について、お話をいただきました。

セミナー参加者の反応としては、余り聞きたくなさそうな人や、また逆に熱心に聞いている人など様々でしたが、我々の気づきをなげかけるという意味で、目的は達成できたのではと思います。

冒頭でも言いました、「これからが本当の意味での原点探し」とは言い換えれば、セミナーを通して学んだことや、その中での気づきを（家庭、会社、社会）等の実践の場実際に取り入れ、生かすことが重要だということです。

最後になりますが、関係各位のご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

やまなし印刷若人会幹事長あいさつ

やまなし印刷若人会幹事長
雨宮 透修



1999年夏、広島大会。

「21世紀最初の緑友イベントだよ。」「あと、セミナーをやれば緑友グランドスラム達成だよ。」「幹事長として株が上がるぞー。」「あっれー！神戸さんが立候補しちゃうみたいだぞー、決めるなら今だぞー。」「人がほしがって物を横取りするの大好きでしょう？」同行した悪魔達がささやきます。

そう切っ掛けは、実に不純でした。そして、私がやまなし印刷若人会の幹事長になり会を停滞させてしまいました。何かカンフル剤を、と考えていた矢先の事もあり神戸印刷若会さんからセミナーを奪い取ってしまったのです。神戸の皆さん大変申し訳ありませんでした。

さて、めでたく？セミナー主管が決定し、長い議論の末『2001原点を探す旅に出よう！』というテーマが決まりました。

また、セミナーなのだからまずは自分達が勉強しようと決め、取りあえず見切りで旅に出発しました。色々勉強してみました。「陰陽学」(宇宙、人間の原点とは?)「脳力開発セミナー」(個人個人の原点?)「和の手法」(人と人の関わりの原点とは?)。そうですここで我々の共通した問題を解決してくれそうなプログラムに出会えたのです。名古屋而立会の岡田さん本当にありがとうございました。

「和の手法」変な宗教と勘違いされないか

という不安もあったのですが(かつて山梨にあったオ〇ムという団体が世間を賑わせましたので)、全国の皆さんも私共と同じ悩み閉塞感を感じられているだろうと飛びつきました。

こうして旅の途中報告というか、このプログラムの紹介のセミナーが開催する運びになったのです。このプログラムが皆さんへ気付きを与える事ができ、それが皆さんの問題解決のお手伝いになる事ができましたら私共も幸せです。

私共はセミナーの準備で全員が一つの方向を向き一つの目的の為一つになれた事で、既にもう一つの目的を達成する事ができました。この機会を与えてくださった緑友会に感謝いたします。

また、このセミナーを終える事が出ましたのも、緑友会の皆さんを始め本当に多くの方々に支えがあったからです。心より感謝いたします、ありがとうございました。

そして、次回セミナーを主管されます千代田印刷人新世会の皆さんの、ご成功をお祈り申し上げます。

まだまだ私共の旅は終わりません。どうぞご興味がありましたら、皆さんまた山梨へお越し下さい。

第34回全国印刷緑友会山梨セミナーに参加して



千代田印刷人新世会
戸根木 孝

「君は生き残ることができるか？」

■序章－言い訳（あるいは愚痴）

先の広島常任幹事会の終わりがけに山梨セミナーの感想を依田さんから頼まれる。（これが依田さんにとって最大の誤算！今後、戸根木を信用したら駄目です！）連休を使って書けばいいや～が締め切りを過ぎ、できないもんはできん！と確信犯で神戸総会に乗り込むと自分のコーナーが白紙のゲラを見せられる。（これには、能天気でお馬鹿な戸根木もこたえました！）だらしなさは筋金入り！いつまでたっても日程、講師、仮予算報告等何一つ具体的に決まらずにいるため、実行委員のメンバーからも突き上げ食らっている。（本当です）それなのに、なんで受けたって？あの素敵な依田さんの笑顔！断れるわけじゃないですか！！誠心誠意書かせていただきます！（「ふう～ん、ほなら？あのワイングラスの酔っ払い写真は？なんやあ？！」と松口さんの声がする。もう、かんにんして～本題に入ります）

■理念は妖精みたいなもの

セミナー開催宣言、ご挨拶といつもの紹介等々進行し、休憩後セミナー劇が始まる。舞台には苦悩する社長が1名。「なんでだあ～！」と悩みつつ「しょうがねえよなあ～、うん、俺は精一杯やったんだあ」と時代や他人のせいにして自己弁護を始め諦める社長に「なあに言ってんだよ！！！」とお世辞にも妖精なんて？のぜんぜん可愛くない妖精役のにいちゃんが大声で後ろから突っ込む。「はあ妖精？嘘付け！妖精って言うのはもっと小さくて可愛いくて背中に羽が…」に「うちのばあちゃんもそうだった」とささり、面白くもおかしいテンポのよいやり取りに一気に引っ張り込まれる。

社長舞台は5年前にタイムスリップし、妖精は苦悩するを論ずる。社長も徐々に反省しだして現在を通過して2005年の未来に最後は社長が改心？し、アドリブの7人のギャングの話をする時には、ご覧になったみなさまは色々と感じたり考えることが多かったと思います。下手すると、くさい&押し付けがましい、わざとらしいになりかねない上に「生き残れなかった3分の1」なんてテーマが重く難しいのにもかかわらず、脚本のよさと演出で、ぐいぐいと最後まで引き込まれてしまいました。（過去にひどい舞台を押し付けがま

しく見せられてトラウマがある私が言うのですから間違いなく面白かったです。）そして第2部住吉海平市の実践からの理念、大和信春氏の「和の実学」を実践している会社の運営をより具体的に聞く。改めて理念の大事さを認識しなおしました。劇中で改心前の社長は企業理念を特別販売価格の5万で購入しました。買えるものじゃないし、何億かけても手に入らないけど、心がけひとつで確実に手に入れられる。でも、手に入れたかと思っても、怠慢すればいつのまにかなくなっている。そう妖精みたいなものなのかもしれません？ひょっとしたらISOとるより難しく大切なことかもしれません。

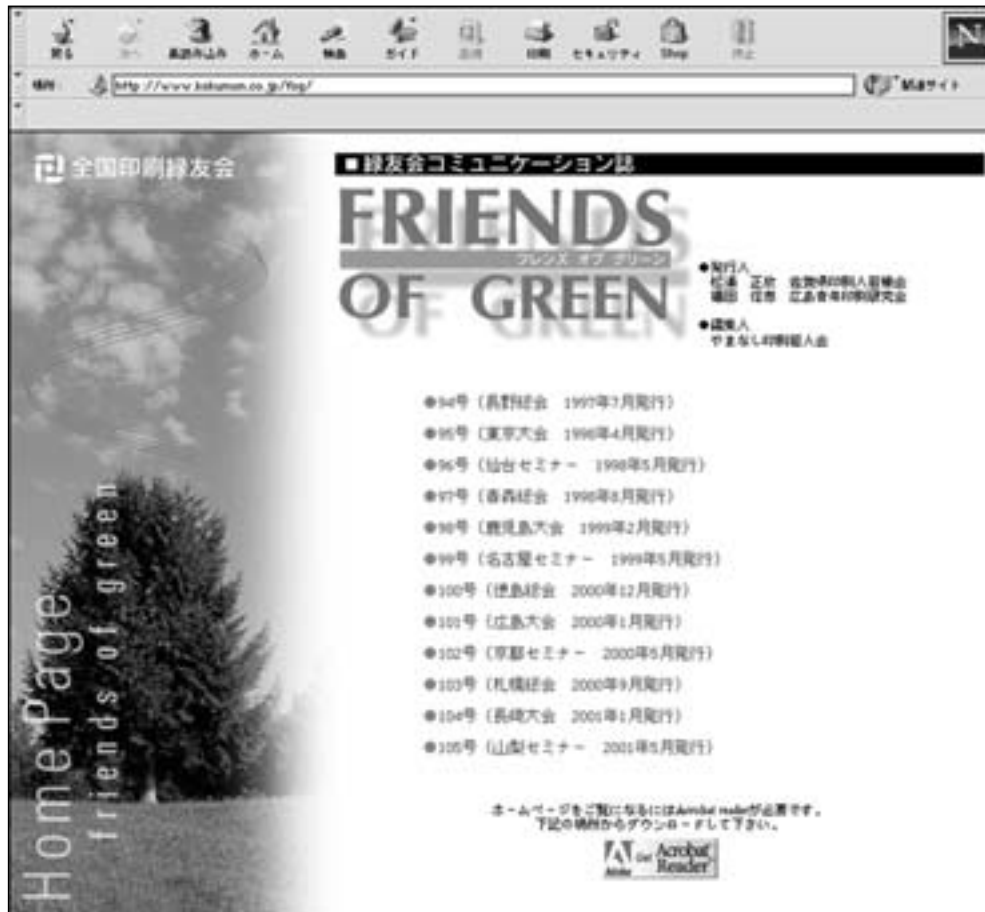
懇親会では三都物語の大阪・神戸・京都の天然のボケと突っ込みのトリオ漫才。岐阜名物のピンクレンジャー、そして厳粛な気持ちで旗を受ける自分！最後の山梨若人会のご挨拶には、京都名物？お花の贈呈とビールかけ。（滝本さん、京都では3倍になってかえってきますよ～！ご用心！！）

そして、靴が鳴るで続き感動の山梨セミナーは幕を閉める。お疲れ様でした！！

■広告とお詫び

さて、こんなズボラな私が実行委員長となり、東京でセミナーを2002年2月9日に開催させていただきました。緑友のみなさま、説得力はありませんし、不安だらけでしょうが、充実したセミナーと懇親会でおもてなしいたします。多分、否！きつと！！万事お練り合わせの上、ご参加ください。待っています！！原稿を書きながら、今改めてセミナーを思い出すと、山梨の方たちの見えない苦勞がひしひしと訴えてくる。これが緑友の心？魂？皆さんをおもてなすという理念なのかもしれません。そういうことを知らしめるために依田さんはわたくしめに原稿を依頼されたのかもしれませんが。依田さんをはじめ山梨若人会、すみませんでした！ありがとうございます！必ずセミナー成功させます。

最後に瓶入りの老酒！（ギョーザのパロです）僕はエリザベスハーレーが好きです。（5月14日（月）脱稿）



FG94号からFG105号まで 4年間 計12号を「やまなし印刷若人会」で担当させて頂きました。その間多くの関係者・会員の方々にご支援を賜り またご迷惑をお掛けしながらも無事全巻発刊することが出来ました。ありがとうございました。

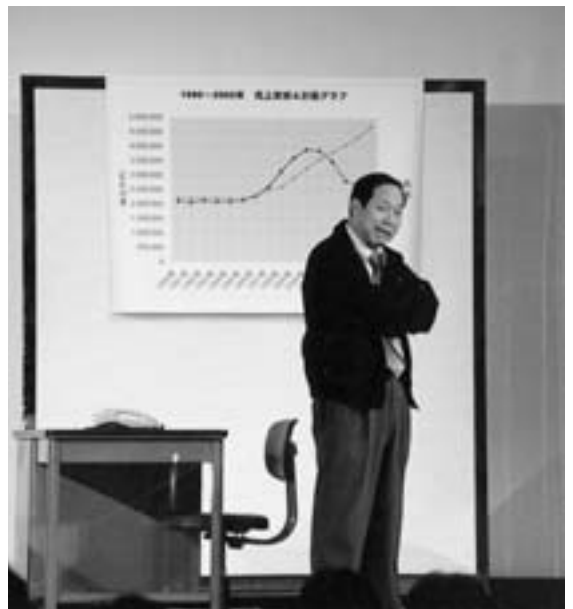
既にご承知の方も多いとは存じますが、FGは発刊ごとに緑友サーバーよりリンクを貼ってやまなし印刷若人会の会員サーバーにて全巻PDFによるダウンロードサービスをいたしております。従来ですとこの時期に94号から105号までの合本を発行するところですが、IT革命時代真っ直中に生きている青年印刷人にふさわしく インターネットによるデータ発信にて、それに代えさせて頂きます。

2001.5.20

やまなし印刷若人会 FG編集委員会 編集長 北條 正・吉岡秀樹・稲葉政太
全国印刷緑友会 広報担当 常任幹事 依田訓彦

フオトライブラリー





平成12年度 第2回常任幹事会

全国印刷緑友会第2回常任理事会 議事録

作成人：戸根木 孝（常任幹事）

（日 時）2000年11月18日（土）

PM14:00～16:30

（場 所）株式会社サドヤ酒造場

- 1、開会の辞（山梨・雨宮）
- 2、会長挨拶（福田会長）
- 3、議長指名（福岡・川島）

（1）40周年記念誌

松浦前会長より長崎での第一回歴代会長インタビューを皮切りに10/11北海道にて11/13東京にてインタビューを行った。緑友会会長が台湾招かれるなど埋もれた記録が見つかる等、新たな発見もあり、現在編集中。スキヤニングは全てカラーだが、あまりデータ重くしたくないとの報告あり。

小倉幹事より全国グループの入校状況報告あり。記事はそろったが、写真が無い会が多々あり引き続きご協力をお願いします。

さらに40周年記念誌の形態の提案が松浦前会長より報告される。

40周年記念誌（案）

第1案 上製本つき（20周年記念誌「道程」と同様）約700万円

第2案 CD-ROM 350～400万円

第3案 CD-ROM+緑友サーバー
350～400万円+a

第4案 緑友サーバー300～350万円

いずれも1500部作成の場合（緑友サーバーは別）、緑友サーバーを利用する場合は、別途サーバー使用料・管理用もあわせて検討する必要がある。

また、同時に20周年記念誌「道程」復刻版CD-ROM約100万円あるいはPDF化（全文検索できるか否かは別とし）してサーバーに保存する案も報告された。

PDF化に関して同友会福田氏より協力できるかもとプレゼンが行われた。PDF化と同時にWEB化が可能で全文検索等機能が使えるとの事。大日本スクリーンのマルチドックシステムのライセンスを買い上げているそうです。

<質疑応答>

山梨雨宮氏「WEBと印刷では画像の取り込みが違おうか？」

松浦前会長「スキヤニング料金は高解像度でまとめ、含まれた料金で見積もっている」

大門氏よりいまだに前回配布された名簿CDの入金も無い会がある、発行部数の調整を含むお金の回収方法も考えてもらいたいとの発言あり。

また、主な原資を基金を使ってはどうかという事で審議された。

<協議の結果>

第2、第3案を基準に立案する方向で決定。原資には基金より捻出する方向。また、電子媒体が基準だが、同時に小部数の上製本を作成する事はシステ

ム的に可能との発言を受け、紙媒体を希望する方にはオプションで提供する方も提案していく事を確認した。

また、最終的に神戸総会までに間に合わせたいとの見通しも発表された。

矢谷氏より現会長材在任中に間に合わせてほしいとの希望と、名簿の入金確認の件が出る。後程の議題で確認。

（2）山梨セミナー

別紙資料参照 別紙資料参照 230名予定12000円
宿泊8000円

予算内容は拍手をもって了承を得る

（3）長崎大会決算

組合から助成金50万円

予算内容は拍手をもって了承を得る

（4）岐阜大会

別紙資料参照

岐阜野村氏「ホテルコンパニオンと一般の違いは触れるか触れないか」 白井氏「見苦しいセクシャルハラメントは、家族や子供が参加するのでご勘弁を」 福田現会長「僕はえ～よ～」
なごやかに承認をえる

（5）岐阜大会以降の立候補

東京千代田印刷人新世会単独開催で2002セミナーを受ける

（6）東海地方集中豪雨被害について

被害に対しての義援金報告（別紙あり）約280万円
名古屋而立会よりお礼、特に被害の大きい5社に渡されることになりました。

義援金の原資としては、

森田氏「基金を使うべき」 岸氏（出席されていませんが）「規定がなく難しい、基準も無い」 大門氏「会長総務の資金をまわす」「神戸震災の時は捻出してない、セミナー時に剰余金を当てた」「災害は予測できない、線引きが難しい」「引当金をつくるか？準備金？」 大鶴氏「義援金という気持ちが大切で、基金は外すべき」。などの意見が交換され、基金からは難しいので今回のような徴収方法が良いのではという方向となった。

（7）サーバー活性化委員会報告

議案書に掲載した、現在進行中のプランが紹介された。より、オープンに、より会にとって役立つ情報を具体的に発進していきたい。

白井氏「知らぬうちにサーバーが落ちていたことがあった、今後のことも考えサーバー管理を委託して安定した環境にしたい」「三菱商事とNTTデータとオリーブでネットでコラボレーションを構想中、緑友サーバーとのリンクも考え積極的に取り入れたい」「徳島多田氏が立ち上げている裏サーバの認知を考えていただきたい」

(8) 東京大会決算報告、東印工組山手支部山青会退会について

東京大会の最終決算が報告された。また、長崎大会の議事録が配布されたが、松浦氏より決算報告の承認の前に再度決定事項に関して確認が必要ではないかという意見が提出された。

松浦氏

其の1 発行された書物は、「記念誌」とは認めない。破棄していただきたい。但し、廃棄の方法は各グループに一任する。

其の2 返金額は283万円から実費160万円を差し引いた123万円

其の3 逸見氏は緑友会を退会する

以上を明記、確認した上で東京大会の決算報告は承認されるべきであり、長崎ではそういう結論に至ったはず。

「条件を議事録に明記する記念誌として認めない議事録と決算書がリンクしていなければならない。グループによっては記録誌として認めるとあるがそうではない。廃棄するのが事実上困難であるから回収しないのである。間違いを記録誌として残してはいかん。私の期では仮決算としてある。常任幹事会で決めるものである記念誌として認めてはいない」福田会長「すでに逸見氏は退会をしている」大鶴氏「当事者である逸見氏本人を呼んで話を聞くべき」戸根木「幾度にわたり在京9団体があつまり逸見氏とで出した答え、今さら必要ない」大門氏「議事録の内容と違う、返答を受けていない」松浦氏「議事録に入ればそれでよい、承認していただく」安藤総務「芝崎氏の文章をそのまま議事録に添付することでよろしいか？また議事録については早急に作成し、審議を仰ぎたい。」

以上、松浦氏より再確認を要望された条件に、東京大会の最終決算報告は承認された。

<東印工組山手支部山青会退会>

福田会長受理(残念である)
大門氏「前期会費はすでに振込まれている」

<会計より報告>

大門氏「会費未納があります」「九州大牟田から名簿の入金未納」「先の東京大会記念誌分123万円が振り込まれている、使いみちを本年度中に指示してほしい」

(9) その他

<神戸兵田氏から確認のお願い(総務が代弁)>

翌日オプションでゴルフ、ユニバーサル・スタジオはどうか？

必要なし！

松浦氏「会場設定のため宿泊別、参加者の心配、より多くの参加を希望する」

<東京港若竹吉田寛二氏より>

若竹40周年記念が2月23日ホテルオークラで行われます。多くの方の参加をお願いいたします
参考資料

長崎での常任幹事・グループ長会議議事録より

①40周年東京大会記念誌の件(千代田印刷人新世会芝崎氏)発行の遅延及び内容についての経緯の説明

(お詫び)がされ、「記念誌」としてではなく「記録」として受け取って欲しい。また、予算は2,835,000円となっていたが、とてもそう云う内容にはなっていないので、実行委員会で協議の結果160万円とさせて頂き、差額の1,235,000円を緑友会に返却させて欲しいとの提案があった。

各グループ長より

「公式の記録誌としては受け取りたくはない」「印刷業界としての印刷物ではない」「会として廃棄処分したい」「緑友会の事を知らない会員に見せれば品位や程度を疑われる」「全額返金して貰うべきだ」「在京案を承認するけれど会員には配布しない」「もうすでに廃棄した」「すでに全員に配った」等の意見を頂き、費用についての件、その処理方法等活発に意見が出された。

会長より

- 1 今回の反省をぜひ生かして、50周年大会を快く受けて頂きたい。
- 2 在京各グループの活性化をはかり、人的な損失を補って下さい。
- 3 在京グループの開催ではなく、単独開催で緑友のイベントを主管して下さい。

との提案があり、「記念誌」の処置方法は各グループ長へ一任する形とすることで原案どおり承認された。

以下芝崎さんの原稿

全国印刷緑友会のメンバーの皆様には益々御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

さて今般、なかなか発行されなかった40周年東京大会記念誌が、突然各グループ長さん宛に送られました。また、受け取られて御覧になられた方には、その内容のひどさに驚かれたことと存じます。これらは全て記念誌作成担当の刷友青山会逸見氏が、実行委員会に何の了承も無く行ったこととあります。しかしながら、長期に渡り発行できなかった事、そしてこの様な事態を招きました事につきましては、実行委員長として多大なる責任を感じております。誠に申し訳ございませんでした。心よりお詫び申し上げます。つきましては、これまでの経緯を説明させて頂き、その対処方法につきましてお願い申し上げます。

①今日までの経緯

- ・40周年東京大会は、会場を、出来たばかりのお台場「ホテル日航東京」に設定しました。そのため会場費にかなりの金額が掛かることが予想され、大会記念誌は作らない方針でスタートしました。
- ・しかし、逸見氏より、記録も残さないのはおかしいという意見が出て、作成されることになりました。
- ・担当は青山会の逸見氏で、記録係の青樹会の山田氏と一緒に仕事をする事となりました。まだこのときには予算は決定されていませんでした。
- ・97年7月10日の第17回実行委員会において、山田氏より予算200万円という話ができました。
- ・次の第18回実行委員会において、逸見氏が自ら「東青協」の大会記念誌を持参され、これと同等のものを作成したいが、それには予算200万円では不足であるとの意見を述べられました。そこで予算が2,835,000円に増額され、この金額で決定しました。また、内容については、座談会+塚田さんの講演内

緑友の心

- 容+αということでした。
- ・大会終了後1ヶ月も経たないうち、早稲田にて座談会を開催しました。
 - ・2ヶ月後、座談会の校正が手元に届き、内容を確認しOKを出しました。また塚田さんの講演についてもリライトができたとの報告がありました。
 - ・翌年の青森総会までに完成させるとのことでしたが、まあ、伸びても鹿児島大会までにはなんとかなるだろうということでした。
 - ・しかし、鹿児島大会までには、ついに出来あがりませんでした。
 - ・以後、総会、大会、セミナーの度に出来るかどうか担当の逸見氏に確認しましたが、その都度「出来ませぬ。」との返事をもらいました。しかし、ついに出来ませんでした。
 - ・札幌総会の後、福田会長より、これ以上いくら経っても出来ないようなら、中断したらどうかのご提案を頂き、常任の安藤氏・戸田氏を始め、実行委員会のメンバーの何人かの方と相談し、中断の方向で検討を始めました。そこで、逸見氏にストップを掛けたところ、もう出来あがっているとの返事でした。ストップを掛けたので、そこで止まっているものと思っておりますが、それから数日後に、私共にも何の相談も無く各グループ長宛に発送されました。
 - ・7月28日に40周年の実行委員のメンバー何人かに集まって頂きこの結果を報告しました。多くの方々より内容が悪いとの意見があり、逸見氏自身もこれを認められました。そこで、取り敢えず各グループ長さんにはこの40周年記念誌をメンバーの方に配らないようお願い致しました。また、常任の方々には逆に1冊ずつお配りして、内容を見て頂くことにしました。
 - ・これがこれまでの経緯です。

②お願い

この40周年記念誌につきましては、作り直す事が本来の取るべき方法であるとは十分に承知しております。しかしながら、大会から3年の歳月が流れ、実行委員会の各メンバーの記憶も薄れてまいり、もはや作りなおすということは殆ど不可能となっております。そこで、誠に勝手な申しようではあります。この40周年記念誌なるものを「40周年東京大会の記録」という形で考えて頂き、お受け取り下さいませよう曲げてお願い申し上げます。また、予算は2835000円となっておりますが、とてもそう云う内容にはなっておりませんので、実行委員会で協議の結果160万円とさせて頂き、逸見氏より差額の1235000円を返却して頂くこととなりました。逸見氏より返却のあったお金はそのまま全国印刷緑友会へお返し致します。さらに、発刊が長期に渡り遅れた件、内容に問題が有る件、実行委員会に一切相談報告も無しに配布した件の責任を取って、逸見氏より全国印刷緑友会を退会する旨の申し出が有り、これを確認致しました。

以上誠に不条理なことを申し上げておりますが、今回を持ちまして40周年東京大会のすべてを終了致したく、何卒、何卒宜しく願い申し上げます。

40周年東京大会実行委員長
千代田印刷人新世会
芝崎 孝

緑友の心 - 緑友会ってなに? -

緑友会長を2年務めさせていただき、最後に自分なりに緑友会について整理しながら考えて見ようと思う。不勉強な上に勝手な思い入れから、勘違いや曲解している部分も多々あると思うが、今後の活発な議論と緑友活動の一助となれば幸いである。

はじめに

緑友会は各地域のグループの集合体で、各グループの活動が緑友会を支えています。本来なら、その上部団体が全国印刷緑友会となりそうですが、そうでないところに緑友会の不思議さと面白さがあります。なぜ緑友に集い、話し合い、勉強をし、懇親を深められるのか? 組織とは必ず上下構造になるのになぜ緑友は同等でいられるのかを、なるべく分かり易く述べてみたいと思います。

人は不幸な存在で、自分で自分を幸せにすることが出来ません。それが可能であれば社会生活をする必要が無く、孤独な暮らしほど幸福でありましょう。つまり他人から与えられるものが幸福であり、当然他人を幸せにしないと自らの幸福に繋がらないことになります。平たくいえば、緑友会はもっと楽しく生きたいと思う人々の集団ということになりましょう。それ故に自分を触発するための刺激を求め、ネットワークを広げることが多くの知識を得ようとしているのだと思います。

緑友を支える三本柱

①グループ長

グループ長という名前は、各グループのスタンスの違いにより会長であったり幹事長であったりするなかで、各グループの自主性を重んじるために付けられています。緑友会の歴史の中でも「会長」か「幹事長」かで大いなる論議を呼び、緑友会が各グループの上部団体ではないことの証の一つと言えます。緑友会にどのように関わるかは各グループの自主性にまかされていますが、個人の活性がグループの活性化に必要な不可欠なように、各グループの活性が緑友会の根幹といえます。

②常任幹事

常任幹事は緑友のお世話役として、会長を含め総務・会計・書記・渉外・会報・広報・監事・プロッ

— 緑友会ってなに？ —



全国印刷緑友会 会長
福田 信彦

ク担当があります。常任幹事はグループ長以外の方が就任することが多く、主に各グループの意見の取り纏めや様々な調整が仕事です。

③個人

最初は緑友の行事にグループとして参加をしますが、全国の仲間と話したり酒を酌み交わす内に親しく付き合えるようになります。緑友のネットワークとITにより全国どこにいても同じ情報を得ることができ、又様々な相談に乗って貰えるようになってきたら、緑友に参加することがもっと楽しくなってきます。そして段々深みにはまる、それが緑友です。

緑友を支える三つのイベント

①総会 ②大会 ③セミナー

各イベントの内容は、決まり事（総会、グループ長会議、常任幹事会）以外は主管するグループに任されています。各グループが失敗を恐れず色々な事に挑戦していく、その調整役として常任幹事が存在しているのです。総会での議決権はグループ長にしかありません。各グループ長には辛いことですが、グループを代表して総会で意見を述べて頂くこととなります。総会が常任幹事の成績発表の場であり、グループを代表するグループ長・グループ長以外で構成する常任幹事会・実際に参加する個人という三者の絶妙なバランスが、緑友を上部構造ではない個人のネットワークたらしめているのだと思っています。主管する側も、個人的にしたいことと全国の皆さんに喜んで頂く気持ちの狭間で揺れ動く事だと思いますが、失敗は自己責任だと割り切ってチャレンジしてみましょう。失敗こそが我々を高みに連れて行ってくれるものですから。

緑友を支える三つの心「緑友の原点」

「原点」と言われましても、懐古主義のように思えたり、昔のことは知らないといった感情が邪魔をして素直に受け取れないことがあります。緑友会は世代交代を繰り返しながらも、常にその時代のトップメンバー達の集まりです。その中での「原点」とは、その時に合わせて自分達で悩み考えながら進みなさいということだと思います。

緑友の「原点」は、すべて個人にあり以下の三つに集約されると思っています。

①参加すること

②主張すること

③行動すること

まず参加することが基本で、多くの素晴らしい人々と知り合い・親睦を深め、人と人との繋がりを作る事にあります。そして、多種多様な会員の皆さんと交流を深め自分を高めつつも、自己を主張して頂かなければなりません。互いに議論をしていく過程において、自分のグループを代表して話す必要はありません。闊達な議論の中では、それが個人の意見であることが必要条件の一つとなります。自分の考える緑友会に何かを感じたら、イベントを主管することが行動の始まりです。

参加するだけでは、緑友という船の乗客になっただけです。意見を交わすことで初めて船員になれます。そして主管することで緑友をリードして頂きたいのです。緑友会は各グループの集合体で、グループは個人の集合体です。個人のわがままな主張がグループを活性化し、謙虚な反省が個人を進化させ、延いては緑友会を発展させる「原動力」となるのです。提案して話し合っていてやってみれば良い。そして又修正すれば良いんです。その過程から初めて何が必要で、何が要らないかを理解してきます。不要なものは捨てれば良いし失敗してもいい、すべて新しく考え直すことが「原点」なのです。

緑友の終焉

緑友会は、その時々々の若者個人の叡智と勇気によって支えられています。緑友で築き上げた人間関係と向上心は終生続きます。それは、緑友が情報交換の場でありネットワーク作りのために存在するからです。もし緑友に終わりがくるとしたら、若者が前進する気持ちと謙虚な反省を忘れた時でしょう。失敗を恐れるあまり常に前例に倣い・変革の為の議論を避け・自分の楽しみだけに参加し・反省を忘れるということが、緑友を個人のものから組織へと変化させます。自分だけでは出来ないからグループを作る、それでも足りないから緑友会があるのではありません。個人が思いついた素晴らしいことをいち早く多くの人に知ってもらい、又多くの人から意見を頂いて磨き上げ実行していく場が緑友会であり緑友の心なのです。緑友会は皆さん個人のものです、大いなる勇気を持って挑戦していきましょう。その気持ち、あなたと緑友会を進化させる原動力ですから。

各地事業予定



京都青年印刷人月曜会 「30周年記念式典」

日 程：平成13年 6月16日(土)
 時 間：17:00～受付
 場 所：料亭「左阿彌」



九州山口青年印刷人大会

日 程：平成13年11月 3日(土)
 時 間：15:00～20:00
 場 所：ホテルニューオータニ佐賀

A Relay Essay

福岡印刷若葉会
西部印刷機材株式会社 佐々木 裕司

緑友会の皆さんこんにちは。福岡印刷若葉会の佐々木でございます。

新しい世紀になり、皆様如何お過ごしでしょうか？21世紀になってもなかなか景気はよくなりならず、暗い話題の多い日々が続いておりますが、今日は私たち福岡印刷若葉会の元気のある話をご紹介しますと思います。

私たち若葉会は会員数44名の会でございます。昨年、忘年会の席でこの暗い世の中のムードを新世紀と共に吹き飛ばすようなことはできないだろうかという話が出ました。

しかし、予算が…、時間が… e t c。でもそこは“お酒”という友達がみんなを励まし、徐々に色々な企画が出てまいりました。その中で、若葉会メンバーが所属するバンドでライブをしようということになりました。ここまでは酒の席でよくある話であります、なんとこれを本当にやってしまうのが若葉会。12月に立案、なんとタイトルもそのものズバリ、「新世紀ジョイントライブ（21世紀を祝い協力の輪を広げよう）」ということで2月12日に開催致しました。300名を超える声援に、若葉会メンバー所属のバンドが3時間にわたる熱演。当然、打ち上げもしっかりと…。

この不景気にもかかわらず、業界皆様の多大なるご協力により盛大なるライブが行え、かつ一部収益金につきましては、福祉施設に寄付もできました。久しぶりに会員全員が一致協力し、大変でしたが楽しい一日を過ごしました。若い力が結集してイベントを行う力強さ、これがまさしく21世紀の印刷業界を支える力であることを改めて確信致しました。

かっこいいことばかり書いておりますが、若葉会もこの数年会員数も減り（OBはたくさんいらっしゃいます）景気のように元気がなくなってきてきましたので、今回の事業は本当に思い付きでありながらいい企画であったと思います。

皆様も是非“元気”が出ることを一緒にしてみても如何でしょうか？

次号の担当は

城野 徹 氏 株式会社城野印刷所 東京事務所長
〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町 2-1
TEL (03)5489-8088 FAX (03)5489-8098



◆第44回全国印刷緑友会 岐阜大会

開催日：2001年9月8日(土)
会 場：岐阜ルネッサンスホテル
登録料：
主 管：ぎふ印刷翠陽クラブ



◆第35回全国印刷緑友会 東京セミナー

開催日：2002年2月9日(土)
会 場：
登録料：
主 管：千代田印刷人新世会



◆第45回全国印刷緑友会 大阪総会

開催日：2002年5月18日(土)
会 場：
登録料：
主 管：大阪青年印刷人クラブ